

会津若松市地域公共交通総合連携計画（案）への意見募集結果

1 募集期間

平成22年2月1日（月）～3月1日（月）

2 提出方法

郵送1件、電子メール2件

3 意見件数

14件（3人）

4 意見の要旨と市の考え方

意見に係る指箇所	意見の要旨	考え方
5. 目標を達成するために行う事業及び実施主体	高速バス利用者の利便性を向上させるため、まちなか循環バス及び周辺町村を連結するバス路線を会津アピオ経由とさせてはどうか。	まちなか周遊バスや周辺町村を連絡するバス（生活交通路線・市町村生活交通路線）の利用者の多くが、JRを利用していることから『若松駅前』を乗換拠点として位置付けているところです。 一方、会津アピオを乗換拠点とした場合には、高速バス利用者にとってはサービスの向上となるものの、それ以外の方々にとってはサービスの低下を招くことから、乗換拠点の変更は計画していないところです。 なお、笈川線の全便及び塩川・喜多方線の一部が会津アピオを経由しております。
	会津アピオ停留所を整備してはどうか。	ご提案の内容は、連携計画書P4の目標1-3の『乗換拠点の整備』に該当しますが、会津アピオ停留所にはすでに『上屋及び電光掲示板』が設置されております。
	会津若松駅前ロータリーの上屋を整備してはどうか。	駅前広場（バス乗場）の上屋については、多額の経費を要することから、その経費負担のあり方をはじめ検討すべき課題が多く、連携計画に位置付けるまでの熟度に達していないため計上を見送ったところです。
	中島町経由は土日運休で不便であり市内3・4コースと紛らわしいので、改善すべきである。	ご提案の内容は、連携計画書P4の目標1-1の『定期路線バスの運行の効率化』に該当します。 なお、具体的な運行経路・ダイヤの見直しについては、路線バス事業者が毎年検討しておりますので、その際に参考とさせていただきます。
	ワンコインバスで利用者増を図るべきである。	ワンコインバスに関しては、『ハイカラさん』『あかべえ』『ひまわりくん』など、運行している区域（範囲）が200円均一運賃に適しているため導入しておりますが、他の路線への拡大については、バス事業者及びタクシー事業者それぞれへの影響、ともに生活交通路線等（行政の補助路線）を支える他市町村との調整、利用者の公平感の確保など、様々な観点からの協議・検討が必要となります。 なお、高齢者及び買物客等の利便性を向上させるとともに、商業事業者及び商店街との連携を確保しながら、路線バスの需要を喚起するような運賃サービスのあり方について検討してまいります。
	ノンステップバスを購入すべきである。	ご提案の内容は、連携計画書P5の目標2-1の『高齢者等が利用しやすい公共交通サービスの提供』の『バリアフリーに配慮した施設、設備等の整備』として位置付けております。 なお、具体化に向けた取り組みについては、毎年度策定する事業計画の中で検討していきます。

意見に係る指 摘 箇 所	意見の要旨	考え方
5.目標を達成するために行う事業及び実施主体	(あかべえ)冬期運休はなぜか。	『あかべえ』は主に観光利用を前提とした運行であり、観光客が減少する冬期間においては通年運行している『ハイカラさん』で対応しているところであります。冬期運行については、今後、需要の動向等を見極めながら検討してまいります。
	高速バス利用者のための駐車場を整備すべきである。	高速バス利用者の駐車場については、これまで各バス事業者がそれぞれの経営戦略に基づき独自に駐車場を整備してきた経過にありますので、連携計画には位置付けておりません。
	ハイカラさんを増車(クラシックタイプ)すべきである。	ご提案の内容は、連携計画書P5の目標2-2の『観光客が利用しやすい公共交通サービスの提供』の『まちなか周遊バスの充実』に該当します。クラシックタイプ車両の増車及び老朽化に伴う車両の更新については、需要の動向等を見極めながら検討してまいります。
	生活交通路線へ小型ノンステップバスを導入すべきである。	ご提案の内容は、連携計画書P5の目標2-1の『高齢者等が利用しやすい公共交通サービスの提供』の『バリアフリーに配慮した施設、設備等の整備』として位置付けております。なお、具体化に向けた取り組みについては、毎年度策定する事業計画の中で検討してまいります。
	福島交通と共通のバスカードやsuicaを導入すべきである。	ご提案のバスカード等の導入にあたっては、多額の経費が必要であり、費用対効果や経営的観点から事業着手が困難であるため、連携計画への計上を見送ったところです。
	市内の渋滞を緩和させるため、西若松駅、旧若女(旧学鳳高校)、アピオ周辺への乗継所を設置してはどうか。	ご提案の内容は、連携計画書P4の目標1-3の『乗換拠点の整備』に該当します。なお、パーク&バスライド及びサイクル&バスライドの具体的な取り組みについては、市及び交通事業者、さらには関係機関と連携しながら検討してまいります。
	低床バスの購入を市や県が補助すべきである。	低床バスの購入にあたっては、この連携計画を踏まえつつ別途策定する事業計画に盛り込むことにより、向こう3年間は国庫補助の対象となりますが、引き続き国庫補助制度の更なる拡充について働きかけを行ってまいります。
マイカー通勤を減らすため、公共交通の運行時間やルート、料金などについて見直し、通勤費の代わりに定期券を支給してはどうか。	ご提案の内容は、連携計画書P6の目標3-1の『企業や事業所等による通勤利用促進』に該当します。なお、『エコ通勤』に係る取り組みは、市内の内視鏡製造事業者が先進的な取り組みを行っているところであり、参画する事業所が少しでも増加するよう市としても交通事業者とともに働きかけを行っていきたいと考えています。一方、市役所では、現在『マイノーカーデー』の取り組みを進めているところではありますが、この先進的な事例を踏まえ、今後どのような取り組みが可能か検討していきたいと考えています。	